

— 施策の展開 —

施策の展開

1 マーケットインの視点で生産力を強化

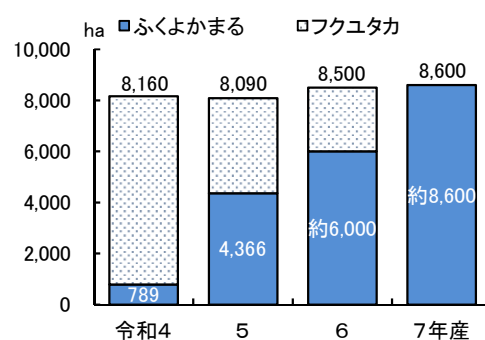
（全面転換に向け大豆新品種「ふくよかまる」をPR）

- ・県では、県産大豆の安定供給を図るため、令和4年産から、新品種「ふくよかまる※」への切替を進めており、5年産では、県内の大豆作付面積の5割以上となる4,366haで作付されました。
- ・5年度は、「ふくよかまる」販売開始から1周年を記念し、福岡市内の神社仏閣での節分大祭におけるPRや、県内飲食店で「ふくよかまる」を使った商品を提供するフェアを開催しました。
- ・今後は、7年産までに、県内の大豆作付面積のすべてを「ふくよかまる」に切り替えるため、種子の安定供給と「ふくよかまる」の需要拡大を進めます。

※ふくよかまる：県農林業総合試験場が平成29年6月に開発。
（品種名「ちくしB5号」）



櫛田神社節分厄除大祭で
豆まきを行う服部知事



「ふくよかまる」への転換計画

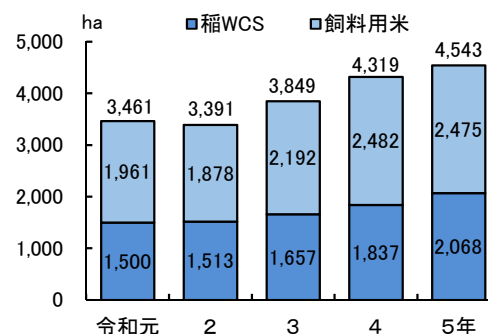
資料：農林水産省「作物統計」
水田農業振興課調べ

注：令和4、5年産は実績値、6、7年産は計画値。

（飼料価格高騰の影響を受けた畜産農家の経営継続を支援）

- ・令和3年から続く飼料価格高騰は、依然として、畜産農家の大きな負担となっています。このため、県では、飼料の購入経費の一部を助成し、畜産農家の経営継続を支援しました。
- ・また、自給飼料の生産拡大によるコスト低減を図るため、牧草類や子実用とうもろこし、稲WC S※、飼料用米といった自給飼料の生産機械の導入を支援しました。
- ・この結果、令和5年の稲WC S及び飼料用米の作付面積は前年から224ha増の4,543haとなりました。

※稲WC S：稲の穂と茎を丸ごと刈り取り、発酵させた牛の飼料



稲WC S及び飼料用米の作付推移

資料：農林水産省



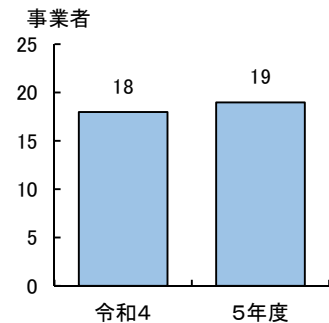
子実用とうもろこし収穫機

(サワラの高鮮度処理の取組が拡大)

- ・県では、消費者ニーズに対応した農林水産物の生産促進を図るため、出荷規格や出荷方法の見直しに取り組んでいます。
- ・水産海洋技術センターでは、サワラの付加価値向上に向けた、高鮮度処理マニュアルを作成しており、糸島漁協や遠賀漁協では、このマニュアルを活用し、高鮮度処理サワラを出荷して、市場で高い評価を得ています。
- ・令和4年度からは、宗像漁協がサワラの高鮮度処理の取組を本格的に導入するなど、筑前海区での取組が拡大しています。また、糸島漁協や宗像漁協では、飲食店と連携し、高鮮度処理サワラを使った料理を提供するフェアの開催といったPRにも取り組んでいます。



高鮮度処理されたサワラ



出荷規格や出荷方法の見直しに取り組む農林水産事業者数

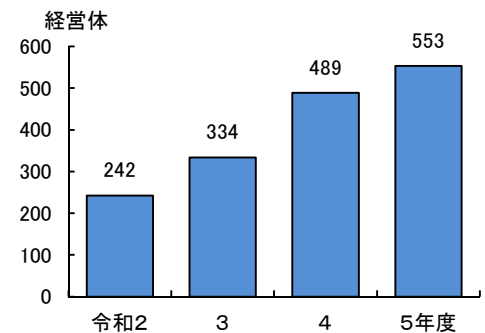
資料：農林水産政策課調べ

(スマート農業機械の導入をはじめとする農業DXを推進)

- ・県では、デジタルデータを活用した農業経営を行う、農業DXを推進し、高品質・高収量・省力化の実現を図っています。
- ・令和5年度は、無人での自動走行が可能なロボットトラクターや農薬散布のための防除用ドローン、ハウス内の環境を作物の生育に最適な状態に保つ総合環境制御システムなどのスマート農業機械の導入を支援しました。
- ・また、民間企業、先進農業者、大学、試験研究機関、行政機関など、産学官連携による「福岡県農業DX推進協議会」を開催するとともに、農業DX推進フォーラムを通じて、先進事例や課題解決手法の共有を行いました。



ロボットトラクターによる耕起



デジタルデータを活用した経営を行う農業経営体数

資料：農林水産政策課調べ

アドテック (園芸ADTECセンターの基本構想を策定)

- ・県では、園芸農業の先進技術開発を行う「園芸 ADTEC センター」(正式名称:園芸農業アドバンステクノロジーセンター)を設置することとしており、令和5年度、その目指す姿や果たす役割、施設整備の方針等を具体化する基本構想を策定しました。
- ・基本構想では、本センターにおいて、持続的に発展する「稼げる農業」の実現を目指し、先進的な農業者や企業、研究機関と連携しながら、収益性を向上させる技術や環境負荷を低減する技術を開発するとともに、新技術の現場実装の加速化に取り組むこととしております。
- ・また、本センターは、園芸農業の主要な産地である筑後地域の中から、交通の利便性等を勘案して筑後市に設置することとしており、9年度中の供用開始を目指します。



園芸 ADTEC センターイメージ図



実施する研究の例 (イメージ)

トピック

○ 北九州ストックポイントが共用を開始

- ・北九州市中央卸売市場内に、「Marukita Logistics Base」(丸北物流拠点)が完成し、令和5年10月から共用を開始しました。
- ・当施設は、青果物流の中継基地として、配送する青果物を一時的に保管するストックポイント機能を有するだけでなく、低温荷捌き場と温度の異なる2種類の冷蔵施設をあわせ持つことで、青果物の種類に合わせた品質管理ができる施設となっています。
- ・また、当施設は、各産地からの出荷情報を事前に集約し、効率的な積み替え作業を可能にする物流システムやトラックドライバーの待機時間の削減につながるトラック予約管理システムを導入するなど、物流の「2024年問題」に対応した物流施設となっています。

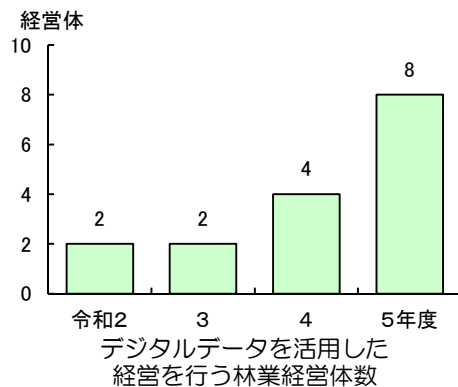


「Marukita Logistics Base」の外観

(ICT等の先端技術を活用するスマート林業を推進)

- ・県では、森林作業の効率化や省力化を図るため、森林管理に地理空間情報などのデジタルデータを活用するスマート林業を推進しています。
- ・令和5年度は、先端技術に対応できる人材を育成するため、林業経営体を対象に、知識や技能を習得する「林業ICT人材育成研修」を実施しました。
- ・この取組の結果、ドローンによる写真測量やGNSS測量※で得られたデジタルデータを活用する経営体数が前年度から倍増し、8経営体となりました。

※GNSS測量：衛星測位システムを用いて行う測量のこと。



資料：林業振興課調べ



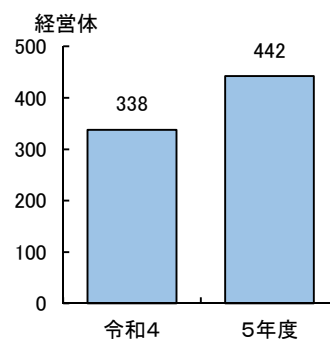
GNSS 測量研修

(ICT技術を活用した7日先までの海況予測を配信)

- ・県では、これまで、科学的データを基にした効率的な操業を推進するため、筑前海区において3日先までの水温や潮流の予測データを、漁業者のタブレット端末に配信する「海況予測システム」を開発し、高い評価を得てきました。
- ・このような中、漁業者から、「予測できる期間が長くなれば、より計画的な出漁や効率的な操業につながる」との声が聞かれたことから、県では、令和5年度に、調査船で測定した詳細な海底地形データをシステムに取り込むといった改良を行い、7日先までの予測データ配信が可能となりました。
- ・また、この海況予測システムの活用事例を紹介する研修会を開催し、漁業者への普及を進めています。



県調査船による海底地形データの収集



資料：漁業管理課調べ

トピック

○ 有明海でのICTを活用した取組を推進

- ・有明海のノリ養殖では、^{ちょうせき}潮汐表を基にノリ網を吊す高さを調整していますが、気圧や風向によっては潮汐表どおりに潮が引かないことがあります。
- ・そこで、県では養殖管理の高度化を図るため、既存の水温等のリアルタイムデータに加え、海況予測モデルを開発し、県HPの「うみえる福岡」で3日先までの潮位などの予測値の配信を開始しました。
- ・また、天然の「福岡有明あさり」を消費者が信頼して購入できる新しい流通体制（福岡モデル）を構築するために、データ改ざん防止技術を用いたトレーサビリティシステムの開発を進めています。

日付	干潮時刻	予測潮位－潮汐表潮位(m)
05月17日	11:04	-0.06
	23:08	0.39
05月18日	11:59	0.08
05月19日	00:06	0.47
	12:39	0.21
05月20日	00:52	0.50
	13:16	0.34

※「－」表示は潮汐表より低くなる予測

※空欄は潮位データなし

「うみえる福岡」予測潮位の配信画面

（農地の大区画化・集約化により水田農業の生産性を向上）

- ・県では、スマート農業機械の導入や農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化による規模拡大に向け、畦畔除去やほ場の均平作業による大区画化など、生産コストの低減に取り組む生産者を支援しています。
- ・令和5年度は、筑紫野市の西小田地区において、1筆あたりの平均面積が県平均の約3倍となる52aまで拡大するなど、7市町12地区における農地の大区画化・集約化の取組が実施されました。



バックホウによる畦畔除去作業

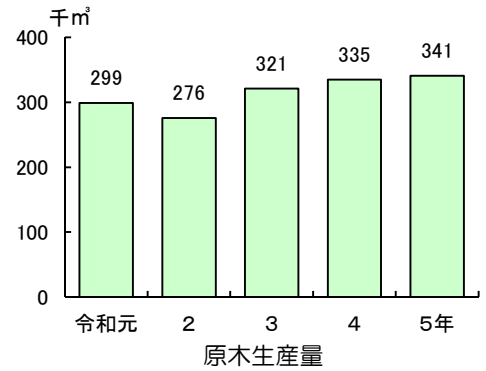


レーザーレベラーによる均平作業

(県産木材の生産量は 341 千 m^3 まで拡大)

- ・県では、県産木材の供給力を強化するとともに、資源の循環利用を図るため、主伐※を推進しています。
- ・令和 5 年は、主伐経費への助成や高性能林業機械の導入支援による主伐の推進に加え、円安などの影響が続く中、輸入木材の供給減少による国産材需要の高まりから、主伐が積極的に実施され、原木生産量は、前年から 6 千 m^3 増の 341 千 m^3 となりました。

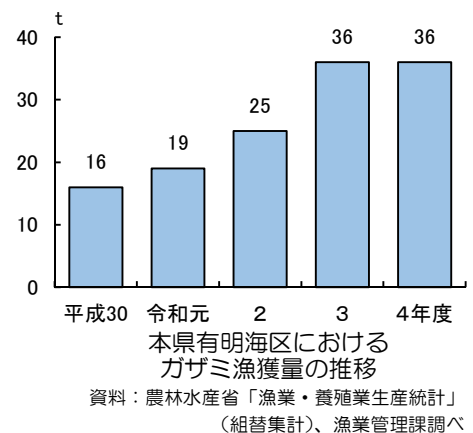
※主伐：一定の林齢に生育した立木を材木として販売するために伐採すること。



主伐による原木生産の現場

(有明海でガザミの資源管理を強化)

- ・漁業者は、水産資源の持続的な利用を図るため、自主的な資源管理に取り組んでいます。また、水産資源は漁獲や漁場環境の変化により変動することから、状況に応じて管理方法を見直す必要があります。
- ・このため、令和 5 年度は、県の指導のもと、13 団体が休漁日や禁漁区の設定といった、資源管理方法の見直しを行いました。
- ・有明海では、ガザミの資源を増やすため、関係 4 県の漁業者が、種苗放流や脱皮直後で甲羅が軟らかく商品価値の低いガザミを、再び海に戻すといった取組を継続して行っています。
- ・さらに、4 県の協議がまとまり、6 年度から全県で甲羅の長さ 13cm 以下のガザミを再放流することとし、資源管理を強化しました。

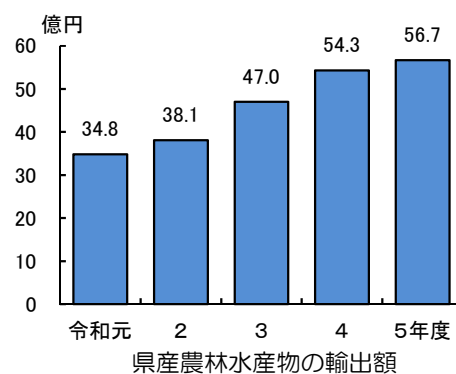


ガザミの種苗放流

2 「選ばれる福岡県」に向けてブランド力を強化し、販売を促進

(農林水産物の輸出額は56億7千万円で過去最高を更新)

- ・県では、県産農林水産物の海外への販路拡大及び海外市場でのブランド力強化を図るため、販売促進フェアの開催や商談会への出展支援、輸出向けの生産体制構築に取り組んでいます。
- ・令和5年度は、北米や台湾向け需要が増加したことにより県産農林水産物の輸出額は前年比4.5%、2億4千万円増の56億7千万円となり、過去最高を更新しました。



資料：輸出促進課調べ

(ベトナムで県産みかんをPR)

- ・令和3年にベトナムが日本産みかんの輸入を解禁して以降、県では、県産みかんの輸出拡大を進めており、5年度は、ベトナムにおける県産みかんの販売促進や認知度向上に取り組みました。
- ・具体的には、ホーチミンの百貨店や量販店での福岡みかんフェアや、みかんを使ったスイーツを作る料理教室を開催し、県産みかんの販売促進を図りました。
- ・加えて、福岡みかんフェアや料理教室について、ベトナム在住インフルエンサーのSNSを活用し情報発信することで、県産みかんの認知度向上に取り組みました。



福岡みかんフェア



県産みかんを使用した
スイーツを作る料理教室

(九州・山口各県や経済団体と連携して、シンガポールで県産農産物をPR)

- ・県では、九州地域戦略会議※の一員として、九州・山口各県、経済団体と連携し、農林水産物・食品の輸出拡大に取り組んでいます。
- ・令和5年度は、シンガポールの日系スーパーで、九州・山口各県の農産物や加工品の美味しさをPRする農産物販売促進フェアを開催しました。
- ・販売促進フェアでは、九州ロゴマークで装飾した特設コーナーを設置し、福岡県産のいちご「あまおう」をはじめ、九州・山口各県産の農産物の試食販売を行いました。

※九州地域戦略会議：九州各県、山口県及び（一社）九州経済連合会で構成。「九州はひとつ」の理念のもと、九州独自の政策に取り組んでいる。



シンガポールでの販売促進フェア



フェアチラシ

トピック

〇 八女茶の輸出拡大に向けた米国でのプロモーション

- ・八女茶の輸出拡大を図るためには、近年、日本茶の需要が大きく伸びている米国における認知度向上や販路拡大が必要です。
- ・このため、県では、ニューヨークの三つ星レストランにおいて、八女茶と食事のペアリング試食会を開催しました。
- ・また、ハワイの飲食店においても、現地のメディアや飲食店関係者、観光関係者等を対象に、八女茶や福岡有明のり等を使った福岡フェアを開催し、福岡の食材の魅力をPRしました。
- ・この試食会では、煎茶や水出し玉露、抹茶といった八女茶に合う料理が提供され、服部知事が、現地の飲食店関係者やインフルエンサーに、高級料理との相性が良い八女茶の魅力を直接発信しました。
- ・今後も、600年を超える歴史や伝統的な生産方法といった八女茶の特長を現地関係者に広く紹介することで認知度向上を図り、更なる輸出拡大につなげていきます。



試食会であいさつする服部知事



八女茶と食事のペアリング試食会



福岡フェアでの特別メニュー

（「博多ぶなしめじ」が美味しくなってリニューアル）

- ・県では、県産農林水産物のブランド化を推進しており、令和5年度末現在で、14品目が福岡県農林水産物ブランド化推進協議会により県産ブランドとして認定されています。
- ・林産物については、「博多ぶなしめじ」の安定供給を図るため、株式会社大木きのこ種菌研究所と共同で、新品種「福おおき 173号」を6年の歳月をかけて育成しました。
- ・新品種は従来品種と比べて苦味が少なく、食味が良いのが特長です。また、高温に強いため、近年の猛暑により増大する冷房コストを低減することができます。
- ・5年4月から、新品種の本格導入を開始し、9月にはすべての「博多ぶなしめじ」が既存品種から新品種に切り替わりました。
- ・また、リニューアルした「博多ぶなしめじ」の美味しさを県民に広く周知するため、生産者が実施する市場でのお披露目会や量販店での試食会といったPR活動を支援しました。



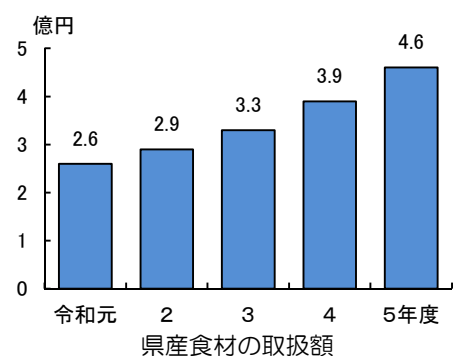
リニューアルした
「博多ぶなしめじ」



福岡市中央卸売市場での
お披露目会

（県産食材の取扱額が4億6千万円に拡大）

- ・県では、東京と大阪に「福岡よかもん・よかとこプロモーションセンター」を設置し、首都圏及び関西圏のホテルやレストランに向けた県産農林水産物のPRに取り組んでいます。
- ・令和5年度は、多くの飲食事業者や小売店とつながりを持つ首都圏の卸売事業者と連携し、県産食材の新たな販路開拓に取り組みました。
- ・また、バイヤーの産地招へいや食品サンプルの提供により、県産食材フェアの開催を働きかけました。
- ・加えて、ホテルや百貨店のバイヤーを講師に招き、県内の生産者を対象とした研修会を開催し、事業者の具体的なニーズの把握につなげました。
- ・こうした取組の結果、県産食材の取扱額は前年度に比べ18%増の4億6千万円となりました。



資料：福岡の食販売促進課調べ



「鐘崎天然とらふく」を使用した懐石料理
(麹町なだ万 福岡別邸)

(福岡・大分DCに向けた「おもてなし飾花」で県産花きをPR)

- ・県では、令和6年4月から6月に開催された福岡・大分DC※に先駆け、この観光キャンペーンを盛り上げるため、JR主要4駅（博多・小倉・久留米・新飯塚）と県営公園内の3施設（旧福岡県公会堂貴賓館、大濠テラス、九州芸文館）で、5年9月と6年2月に約10日間ずつ、キクやバラ、トルコギキョウ、ガーベラといった県産花きで色とりどりに装飾するとともに、各駅では、県産のバラやカーネーションの一輪花を配布しました。
- ・花の装飾の前では、多くの観光客が足を止め、写真を撮る姿が見られ、観光客へのおもてなしを契機に、4月からのDC本番へとつなげました。

※福岡・大分DC：「福岡・大分デスティネーションキャンペーン」の略で、福岡・大分両県とJRグループが共同開催する大型観光キャンペーン。



JR 博多駅での飾花の様子

トピック

○ 県内最大の酒のイベント「& SAKE FUKUOKA」が4年ぶりに本格開催

- ・福岡の素晴らしいお酒を県内外の皆様により深く知ってもらう、県産酒の大規模PRイベント「& SAKE FUKUOKA」が、令和5年9月30日、10月1日の2日間、福岡国際センターで開催されました。
- ・近年ではコロナ禍の影響により中止や規模縮小を余儀なくされていましたが、実に4年ぶりの本格開催となり、県内43の酒蔵と人気飲食店30店舗が一堂に会し、2日間で約1万3千人が福岡の酒と食を楽しみました。



「& SAKE FUKUOKA」
(福岡国際センター)

（福岡・大分ＤＣを活用し県産水産物をＰＲ）

- ・福岡・大分ＤＣを契機に、国内外から来福する観光客の大幅な増加が期待されます。
- ・この機を捉え、観光客に「ふくおかの地魚応援の店」の情報を提供し、誘客を図ることは、県産水産物を広くＰＲすることにつながります。
- ・そこで、県は令和５年７月から、「ふくおかの地魚応援の店」紹介冊子のWEB版を、日・英・中・韓の四か国語で配信するとともに、SNSのバナー広告を活用したＰＲを行いました。

※「ふくおかの地魚応援の店」紹介冊子WEB版URL
<https://fukuoka.jizakanavi-plus.jp/>



「ふくおかの地魚応援の店」WEB版
 （上段：日本語・下段：外国語）

（「ふくおかごちそうマルシェ」で県産農林水産物のＰＲ）

- ・県では、県関係団体で構成する福岡県農林水産物ブランド化推進協議会を通じて、県産農林水産物の認知度向上やブランド化を推進するため、イベントや販売会などのＰＲ活動を実施しています。
- ・令和６年２月には、県営天神中央公園西中洲エリアで「ふくおかごちそうマルシェ」を開催しました。
- ・このマルシェでは、販売単価が２０年連続で日本一となった「あまおう」の配布や、販売開始から１周年を迎えた大豆「ふくよかまる」などの県産農林水産物を使用した料理を販売しました。また、旧福岡県公会堂貴賓館では、県産の花を多数使用した飾花を行い、２日間で約３万人が来場しました。



マルシェ会場における
 知事による「あまおう」配布



旧福岡県公会堂貴賓館での飾花

トピック

○ 「八女茶発祥 600 年」を契機に「福岡の八女茶」を全国へPR

- ・令和5年は、八女茶の発祥から600年となる記念の年でした。県では、この機を捉え、関係機関と連携し、「第77回全国お茶まつり福岡大会」を18年ぶりに開催するとともに、八女茶ブランドの統一ロゴマークを活用し、県内外で「福岡の八女茶」の様々なPRイベントを行いました。
- ・大会の一環として開催した「第77回全国茶品評会」では、「玉露の部」で八女市の倉住 努氏が農林水産大臣賞、八女市が23年連続となる産地賞を受賞しました。
- ・5年10月には、八女茶の魅力発信イベント「八女茶の宴(えん)」を福岡市と北九州市で開催し、2万人以上の来場がありました。
- ・また、県内外の茶販売店53店舗でロゴマークをデザインしたオリジナルボトルのプレゼントキャンペーンを実施したほか、首都圏の商業施設や茶販売店で開催したPRイベントでは、試飲や販売に加え、美味しいお茶の淹れ方や八女伝統本玉露のすすり茶体験のワークショップを行い、若年層を中心に「福岡の八女茶」の認知度向上に取り組みました。



第77回全国お茶まつり福岡大会記念式典



八女茶の宴（福岡市）

トピック

○ 「うまかばい！博多和牛フェア」で博多和牛をPR

- ・県では、関係団体と構成する博多和牛販売促進協議会を通じて、「博多和牛」の消費拡大、認知度向上を図るため、PR活動を実施しています。
- ・令和5年度は、5月12日から14日までの3日間、博多駅前広場で、博多和牛販売促進協議会、JA全農ふくれん、他関係各社が共催して、「うまかばい！博多和牛フェア」を開催しました。
- ・このフェアでは、紹介パネル展示や、「博多和牛」を使用した料理の販売を行い、来場者に「博多和牛」の魅力をPRしました。

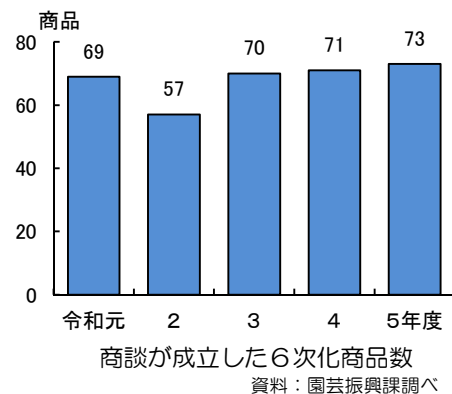


フェア開幕のテープカット

(6次化商品の販路拡大を支援)

- ・県では、百貨店やスーパーのバイヤーが参加する大規模商談会への6次化商品※の出展を積極的に支援し、販路拡大を進めています。
- ・令和5年度は、福岡市で開催された「Food EXPO Kyushu2023」や、首都圏での「アグリフード EXPO 東京 2023」、「スーパーマーケット・トレードショー 2024」への出展支援のほか、東京の商業施設で2日間開催した「福岡県6次化商品PR販売会」にあわせて、バイヤーとの商談を実施しました。
- ・また、6次化商品の付加価値向上とPRを目的とする「ふくおか6次化商品セレクション」には、農林漁業者や農業高校から計42点の出品がありました。このうち、11点が県知事賞をはじめ各賞を受賞し、「DOCORE（どおこれ）ふくおか商工会ショップ」でPR販売を行いました。
- ・これらの取組の結果、73商品の商談が成立しました。

※6次化商品：農林漁業と二次、三次産業が連携し、地域資源を活用した付加価値を生み出した商品。



スーパーマーケット・トレードショー2024

トピック

○ 県産米粉を使用した新商品をPR

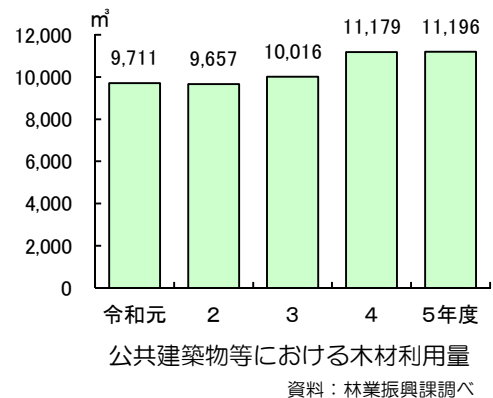
- ・米粉用米は、水田の維持・活用を図るうえで重要な品目です。近年は、グルテンフリーといった健康志向、米粉の特徴を生かした商品開発により需要が増加しています。
- ・県では、県産米粉商品の認知度向上に向けて、県の広報テレビ番組や広報誌等を活用した周知のほか、「&SAKE FUKUOKA」や「Food EXPO Kyushu2023」などのイベント、商談会への出展など、様々な機会をとらえてPRしました。



福岡県だよりでのPR
(令和5年7月号)

(建築物の木造・木質化を促進)

- ・県では、県産木材の需要拡大を図るため「福岡県内の建築物等における木材の利用の促進に関する方針」に基づき、公共施設及び民間施設の木造・木質化を促進しています。
- ・令和5年度は、朝倉警察署宝珠山駐在所の木造化や、築上高等学校教室棟の木質化を行いました。市町村においても、八女市役所をはじめとした施設で木造・木質化が進められました。
- ・これらの結果、5年度の公共施設等における木材利用量は前年度並みの11,196^m³となりました。
- ・また、商業ビルやオフィスビルといった民間施設の木造化を進めるため、中高層の木造建築物の設計ができる建築士を育成するとともに、関係事業者で構成される協議会が取り組む、ビル建築に使用する製材品の規格化や県産木材の供給体制づくりを支援しました。



朝倉警察署宝珠山駐在所

(県産木材のある暮らしの実現に向けた取組を開始)

- ・県では、県民の暮らしの中に県産木材を取り入れてもらうため、木の魅力を実感できる木製玩具やデザイン性の高い家具の販売促進に取り組んでいます。
- ・令和5年度は、多くの県民が利用する施設のキッズスペースへの木製玩具の導入や、木製家具の展示販売会の開催を支援しました。
- ・県内の百貨店で開催された展示販売会には、大川の家具メーカーのグループが、そのブランド力を活かして製作した25商品を出品し、好評を博しました。

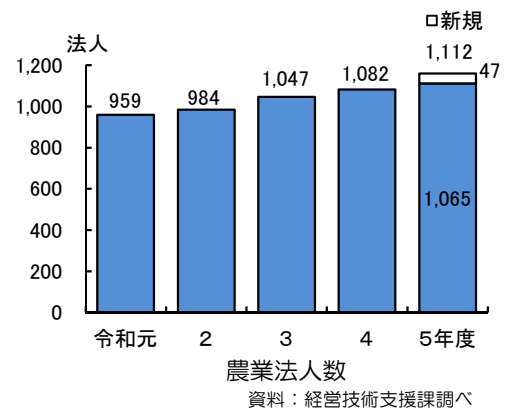


木製家具の展示販売会

3 農林水産業の次代を担う「人財」を育成

(本県農業をけん引するトップランナーを育成)

- ・県では、経営発展に意欲のある農業経営者を対象に、リカレント教育の一環として、企業管理や人材育成、スマート農業技術等の実践的な課題解決手法などを学ぶ「農業トップランナーキャリアアップ講座」を実施しています。
- ・令和5年度は、より実践的な研修とするため、すべての講座で、受講生のは場巡回や経営改善に向けた演習・意見交換を多く取り入れました。
- ・こうした取組により、5年度の新規農業法人数は、47 法人となりました。



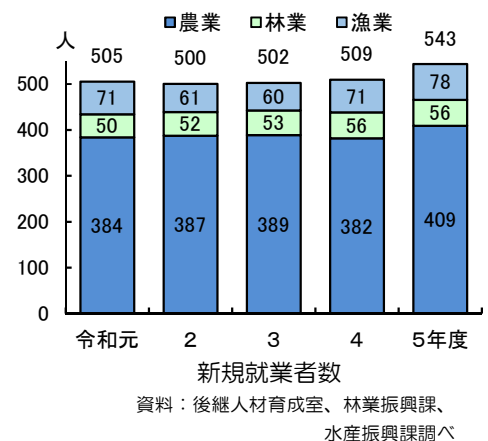
ふくおか農業トップランナー
キャリアアップ講座

(新規就業者数は7年連続で500人を突破)

- ・県では、新規就業者の確保に向け、就業希望者が農林水産業への理解を深め、スムーズに就業できるよう、就業セミナーや相談会の開催といった取組を行っています。
- ・令和5年度は、県内の新規就農支援関係の情報を集約した県ホームページ「農業せんね！福岡で」を、就農希望者が活用しやすいようにリニューアルしました。
- ・また、近年、首都圏から地方への移住希望者が増加している状況を踏まえ、林業就業セミナー・相談会を東京で初開催しました。
- ・これらの取組の結果、5年度の新規就業者数は543人で、7年連続で500人を超えました。
- ・農業では、雇用就農者が152人、新規就農者が257人の合計409人に、林業では、森林組合や民間事業者への就業者が合計56人、漁業では、まき網漁業やノリ養殖業などに合計78人が就業しました。



セミナーでの就農相談



(トライアル就農支援で雇用就農を促進)

- ・雇用就農者は、近年増加傾向にあり、県農業の担い手として、重要な役割を担っています。
- ・一方で、雇用就農したものの、就農前に抱いていたイメージとの相違等から、早期離職するケースも見られています。
- ・このため、県では、雇用就農のミスマッチを防ぐため、就農前に、基礎的な農作業を体験し、自らの適性を見極める「基礎研修」や、農業法人等で短期間就業する「トライアル就農」等の取組を新たに実施しています。
- ・令和5年度は、9人が、これらの取組に参加した後に雇用就農しています。



就農前の基礎研修

(「^{たくみ}匠の技」の伝承を支援)

- ・県では、本県を代表するブランド農産物の「あまおう」や、かんきつ、柿、ブドウ等の果樹を、高い品質で生産する熟練農業者を「匠」として認定し、匠による新規就農者への遠隔指導により「匠の技」の伝承を支援しています。
- ・遠隔指導にあたっては、リアルタイムに映像・音声を共有できる「スマートグラス」等の先端機器を活用しており、指導を行った「匠」からは「遠隔で状況確認が出来るため、移動時間が短縮できる」、新規就農者からは、「両手がふさがらないため、作業しながら指導を受けることが出来る」といった好評の声が聞かれています。



スマートグラスで「匠」から指導を受ける新規就農者



新規就農者へ遠隔指導を行う「匠」

(水産高校生を対象に体験実習やガイダンスを実施)

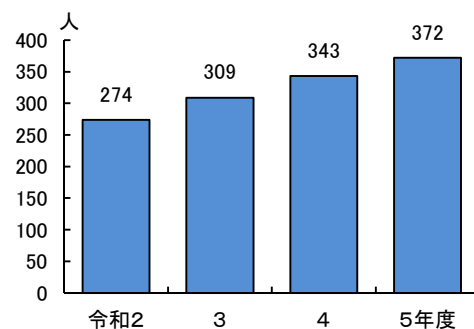
- ・県では、水産高校から県内の漁業への就業を促進するため、遠賀漁協と連携した体験実習や本県漁業のガイダンスを実施しています。
- ・令和5年度は、まき網や定置網、ノリ養殖といった本県漁業について、漁法や1日の操業スケジュールなどを紹介するとともに、養殖ウニの飼育体験や試験販売を行いました。



水産高校での漁業ガイダンス

(女性農林漁業者の経営発展を支援)

- ・本県の農業従事者の4割は女性であるものの、認定農業者に占める女性の割合は低い状況です。
- ・このため、県では、令和4年度から、認定農業者を目指す女性を対象に、認定農業者となるために必要な経営改善計画の作成を支援するとともに、新たな品目の導入に要する経費を支援しています。
- ・また、5年度からは、売上1,000万円以上を目指す女性農林漁業者と応援する企業をマッチングするベンチャーマーケットを開催し、女性起業家の経営発展を支援しています。
- ・この結果、4人の女性農業者が経営改善計画を作成し、ユリなどの新たな品目を導入しました。また、2人の女性農業者が、ベンチャーマーケットに参加し、販路拡大に向けた商品改良や機器整備を行いました。



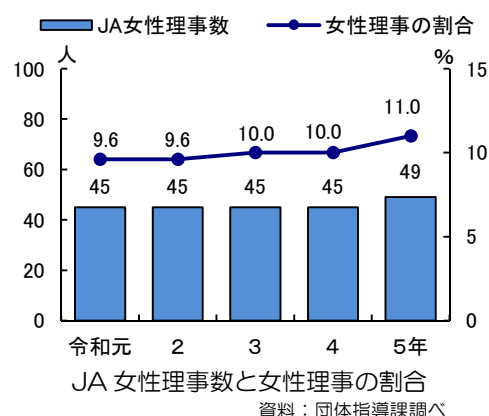
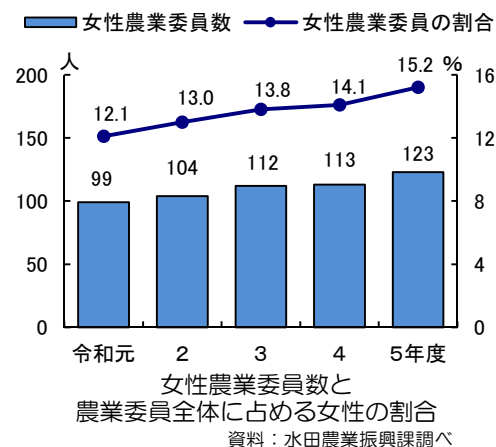
経営参画する女性農業者数※

資料：経営技術支援課調べ

※女性認定農業者及び農業法人の女性役員数

(女性農業者の社会参画を推進)

- ・女性農業委員やＪＡグループの女性理事は、女性農業者の相談相手として、また、地域農業を支える人材として重要な役割を果たしています。
- ・このため、県では、県農業会議や「農業委員会女性ネットワーク」と連携し、農業委員が改選される市町村では女性の登用を、ＪＡグループでは女性理事の登用を推進しました。
- ・この結果、令和５年度の女性農業委員は１２３人となり、農業委員全体に占める割合は約１５％となりました。また、ＪＡグループの女性理事数は４９人で、理事全体に占める割合は１１％となりました。

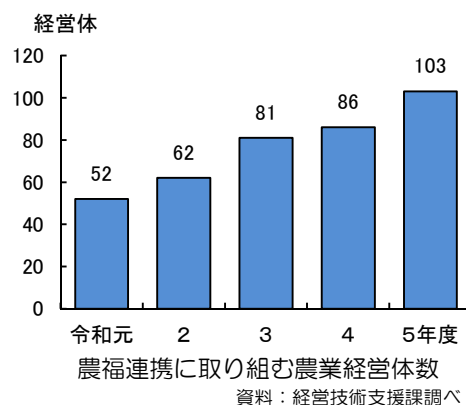


(農業者の取り組む農福連携を支援)

- ・農福連携は、障がいのある方の活躍の場を広げるだけでなく、人手を確保したい農業者にとっても労働力の確保につながる取組です。
- ・県では、農福連携への理解を深めるため、農福連携を志向する農業者を対象に、障がい福祉の概要や、実践事例について学ぶ講座を開催しています。
- ・令和５年度は、１４人の農業者や行政関係者等が講座に参加し、農福連携のメリットや障がいのある方とのコミュニケーションについて理解を深めるとともに、農作業の細分化などの手法を学びました。
- ・受講生からは、「農福連携の仕組みが理解できたため、前向きに実施していきたい」といった声が聞かれました。
- ・また、農業者、福祉施設関係者等５０人が参加する農福連携推進交流会では、障がい者に対する理解を深め、県外の優良事例を学ぶとともに、農福連携についての情報交換を行いました。



農福連携の先進事例の視察



4 持続可能な農林水産業に向けワンヘルスを推進

（「福岡県ワンヘルス認証制度」の認証取得者数が1万経営体を突破）

- ・県では、ワンヘルスの実践が次世代の食と農につながることから、農林水産業におけるワンヘルスの取組を進めています。
- ・その一環として、令和4年9月、食の安全・安心や環境への配慮など、ワンヘルスの理念に沿って生産・販売された農林水産物や加工品を認証する「福岡県ワンヘルス認証制度」を、全国で初めて創設しました。
- ・5年度は、制度の周知を図るため、農協や漁協といった生産者団体に対する説明会を開催するとともに、ワンヘルスの実践につながる取組を推進するため、堆肥の製造や散布に必要な施設・機械の整備などを支援しました。
- ・また、消費者の認知度向上を図るため、制度をPRするテレビCMを放映するとともに、大手量販店において、販売促進フェアや常設販売コーナーの設置を行いました。
- ・この制度には、122件・11,078経営体の414品目が認証されています（6年3月末現在）。

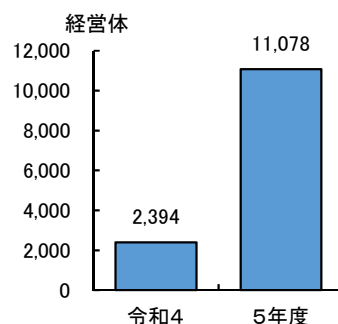
※「福岡県ワンヘルス認証」ホームページURL：
<https://onehealth-certify.pref.fukuoka.lg.jp>



制度をPRするテレビCM



大手量販店の常設販売コーナー

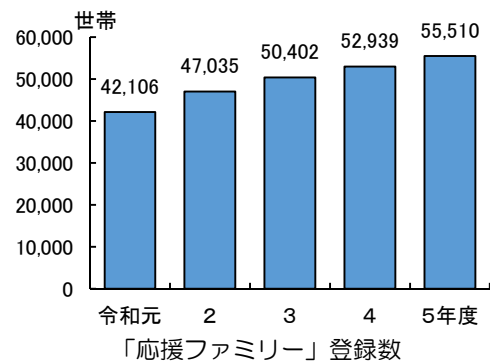


ワンヘルス認証取得経営体数

資料：食の安全・地産地消課調べ

(イベントを通じて農林漁業応援団づくりを推進)

- ・県では、県民の農林水産業への理解促進を図るため、県産農林水産物を積極的に利用していただく「地産地消応援ファミリー」、「地産地消応援の店」、「農林漁業応援団体」からなる「ふくおか農林漁業応援団」づくりを推進しています。
- ・令和5年度は、県内の「応援の店」432店舗で、取得ポイントに応じて県産農林水産物が抽選で当たる来店ポイントキャンペーンを実施し、「応援の店」を広くPRしました。
- ・11月に福岡市で開催した「食育・地産地消月間メインイベント」では、農林水産業の振興や地産地消に特に貢献した「応援団体」2団体を表彰するとともに、来場者に「応援ファミリー」への登録を呼びかけました。
- ・こうした取組により、「応援ファミリー」は55,510世帯、「応援の店」は1,861店、「応援団体」は917団体に拡大しました。



「農林漁業応援団体」表彰式



「食育・地産地消月間メインイベント」での「応援ファミリー」登録ブース

(食育動画や学校給食を通して、子どもたちの地産地消に対する理解を促進)

- ・県では、子どもたちに農林水産業におけるワンヘルスの取組や地産地消の大切さを伝えるため、いちご、ぶなしめじ、博多和牛、マダイといった、県内で生産されている農林水産物 10 品目について、小中学校の給食時間や総合学習で活用できる食育動画を作成し、YouTube で公開しています※。
- ・また、学校給食における県産農林水産物の利用を促進するため、「夢つくし」や「元気つくし」の導入を支援するとともに、学校給食関係者に対して、旬の県産農林水産物の出荷量や価格動向といった情報を定期的に発信しました。
- ・令和 5 年度の学校給食における県産農林水産物の利用率は、前年度から横ばいの 33.9% となりました。

※YouTube チャンネル「いただきます！福岡のおいしい幸せ」

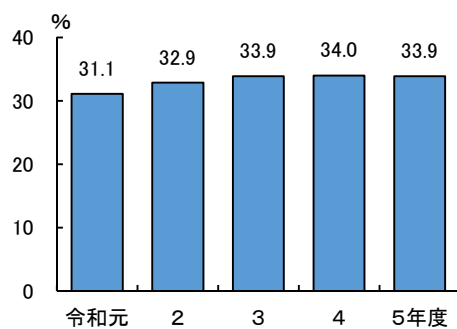
【福岡食育アドベンチャー】知って・食べて・学ぼう

～小中学生向け食育動画～ URL:

<https://www.youtube.com/watch?v=BAzd0gxSPaU>



小中学生向け食育動画（いちご編）

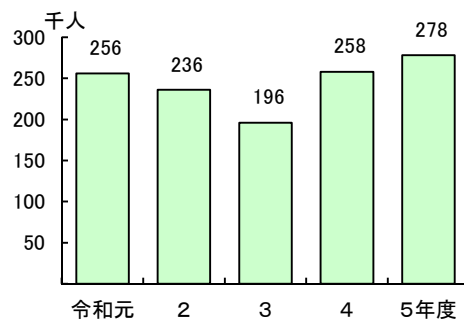


学校給食における県産農林水産物の利用率

資料：食の安全・地産地消課調べ

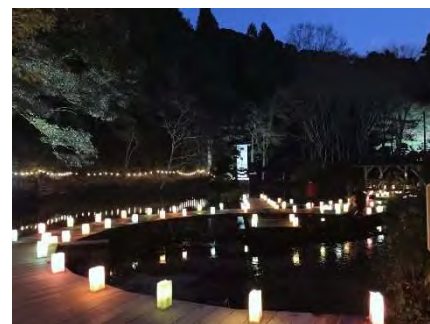
(「ワンヘルスの森 四王寺」の来訪者が増加)

- ・県では、「ワンヘルスの森 四王寺」において、ワンヘルスの理解促進や自然とのふれあいを通じた健康づくりを推進しています。
- ・令和 5 年度は、ワンヘルスガイドによる森林浴の体験ツアーを実施するとともに、11 月には「ワンヘルスの森 四王寺」の魅力の一つである秋の紅葉を楽しんでいただくため、ライトアップイベントを開催しました。
- ・こうした取組により、5 年度の来訪者数は約 28 万人と、4 年度に比べ約 2 万人増加しました。



「ワンヘルスの森」来訪者数

資料：林業振興課調べ

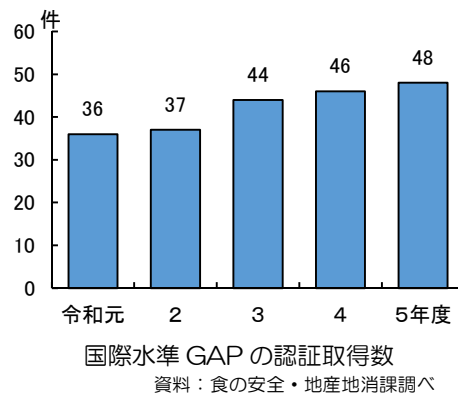


ライトアップイベント

(国際水準GAPの認証取得は48件に拡大)

- ・県では、安全で持続可能な農業の実践に向けて、GLOBALG.A.P.をはじめとする国際水準GAP※の認証取得を目指す農業者を支援しています。
- ・令和5年度は、審査費用や環境整備といった認証取得に要する経費を支援するとともに、農場管理の見える化や、食品安全に係るリスク評価を学ぶ「国際水準GAPレベルアップ研修会」を開催しました。
- ・また、農業者や実需者等を対象とした「GAP普及推進研修会」を開催し、JGAP認証取得者や実需者からの講演、大手量販店等と生産者の情報交換会を実施し、販路拡大につながる支援を行いました。
- ・この結果、5年度の認証取得数は、前年度に比べ2件増加し、48件となりました。

※GAP： Good Agricultural Practice の略で、農業生産の各工程の実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動であり、食品の安全性向上や農業経営の改善や効率化等に資する取組。



GAP 普及推進研修会

(動物保健衛生所の基本設計を策定)

- ・県では、家畜に加え、愛玩・展示動物、野生動物の保健衛生を一元的に取り扱う全国初となる動物保健衛生所の建設に向け、施設の基本設計を策定しました。
- ・施設は、家畜エリア及び愛玩・展示・野生動物エリアにそれぞれ専用の検査室、解剖室、階段等を配置することで、検査材料や職員の動線を分離し、野生動物の病原体が畜産農場に持ち込まれないよう対策しています。
- ・また、外観は、同じ敷地に建設する保健環境研究所の研究棟と合わせ、田園風景に調和する色彩を採用し、玄関ホール等は木質化により、安心と親しみを持てる温かみのあるデザインとします。
- ・今後、この基本設計を基に、令和6年度は施設の実施設設計を行い、施設の建設や人材の確保を進め、9年度中の開設を目指します。



動物保健衛生所イメージ図

(動物の保健衛生業務を担う人材を育成)

- ・現在、県が整備を進めている動物保健衛生所では、家畜に加え愛玩・展示動物や野生動物の保健衛生業務を行うこととしています。
- ・家畜保健衛生所の職員がこれらの業務に対応できるよう、必要となる知識や技術を習得するための研修を実施しています。
- ・令和5年度は、野生動物の疾病、人獣共通感染症及び薬剤耐性菌に関する研修のため、連携する専門機関に職員8人を最長で4週間派遣しました。
- ・また、野生動物の専門家を招へいし、国内への鳥インフルエンザウイルスの侵入状況や、野生動物の生態などの内容で講演会を開催し、延べ67人が受講しました。

大学	北海道大学 北海道大学リサーチセンター 山口大学 日本獣医生命科学大学 岐阜大学 酪農学園大学
行政機関	国立感染症研究所 農研機構(動物衛生研究部門)
団体	日本野生動物医学会 大牟田市動物園

人材育成のための連携専門機関

○ 佐賀県の豚熱発生に伴う防疫体制の強化

- ・令和5年8月末に、佐賀県の2件の養豚農場で九州初となる豚熱が発生しました。これにより、国から本県を含む九州各県がワクチン接種推奨地域に指定されたため、本県では県内飼養豚・イノシシ全頭を対象としたワクチン接種の知事命令を発出し、同年10月5日までに、県内養豚農場の約6万頭の豚に対しワクチンの初回接種を完了しました。
- ・また、県内の養豚農場のうち森林に接する20農場を対象に、イノシシの侵入防止対策として、農場周辺の雑草木を伐採した緩衝地帯を整備しました。
- ・さらに、県内の野生イノシシで豚熱が発生した場合の対応を協議するため、県庁関係各課、市町村、県猟友会、森林組合等を構成員とした「福岡県豚熱感染拡大防止対策協議会」を5年10月に設立しました。
- ・引き続き、全ての畜産農場に対し、飼養衛生管理基準の遵守徹底を指導するとともに、野生イノシシへの豚熱の感染に備えた対策に取り組んでいきます。



養豚農場でのワクチン接種



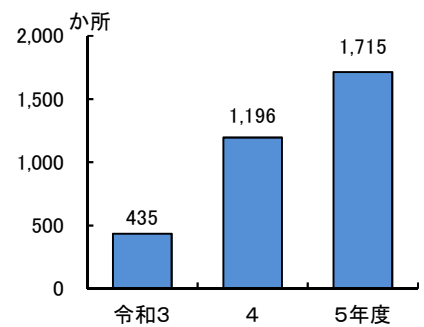
緩衝地帯の整備

5 安心して住み続けられる農山漁村づくりを推進

(農業水利施設や治山施設、漁港施設の防災機能を維持)

- ・近年頻発する気象災害によるリスクを低減していくためには、農業水利施設や治山施設、漁港施設の防災機能を維持していくことが重要です。
- ・このため、県では、施設の中長期的な長寿命化対策を定めた機能保全計画を策定し、補修や更新等を計画的に行っています。
- ・また、防災重点農業用ため池※の防災工事を計画的に推進するため、市町村が行う劣化状況評価に対し、技術的な助言等を行っています。
- ・令和5年度は、41市町村、519か所のため池を調査し、堤体の変状や漏水、地震や豪雨による決壊の危険性について評価しました。

※防災重点農業用ため池：決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池。



防災重点農業用ため池の劣化状況評価の実施状況(累計)

資料：農山漁村振興課調べ

(都市住民による農作業や地域の取組を支援)

- ・県では、魅力ある中山間地域を支えるため、地域住民と一緒に活動する都市住民を「中山間応援サポーター」として登録しています。
- ・令和5年度は、令和5年梅雨前線豪雨により被災した久留米市の農地の土砂撤去や、添田町でのスキの刈り取りといった、7市町村、計15回の地域活動にサポーターの参加を呼びかけ、204人が参加しました。
- ・さらに、これらの地域で収穫された農産物やその加工品を中心に販売する「中山間地域応援マルシェ」を県庁ロビーや天神地下街などで6回開催し、中山間地域の魅力を発信するとともに、サポーターへの登録を呼びかけました。加えて、ホームページ※やSNSでの募集にも取り組んだ結果、サポーター数は6年3月末で2,830人となりました。

※中山間応援サポーターホームページURL：

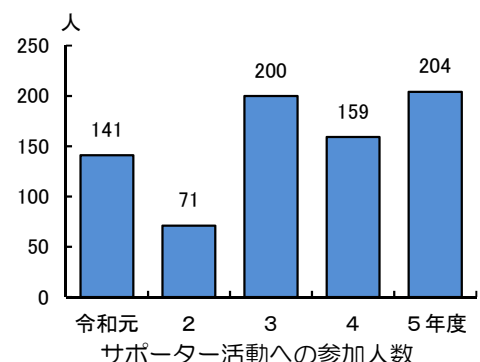
<https://f-ouen.com/chusankan/>



スキの刈り取り



中山間地域応援マルシェ



資料：農山漁村振興課調べ

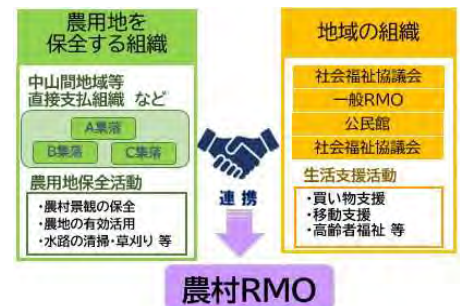
(持続的な活力ある中山間地域づくりを推進)

- ・県では、中山間地域において、農地の保全や買い物支援、高齢者の見守りといった生活支援などに取り組む農村型地域運営組織（農村RMO※）の形成支援に取り組んでいます。
- ・令和5年度は、組織形成へのアプローチや地域との協働などを学ぶ、市町村職員向けの研修会を添田町と東峰村で開催したほか、添田町では、地域住民を対象とした地域の将来を話し合うワークショップを開催しました。
- ・さらに、農村RMOの取組を県内に広く周知するため、他県の先進事例や県内の取組事例を紹介する「福岡県農村RMOフォーラム」を開催し、市町村や地域活動組織等から30人が参加しました。

※農村RMO：地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となり、農地の保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を持続的に実践する組織。



農村 RMO フォーラム

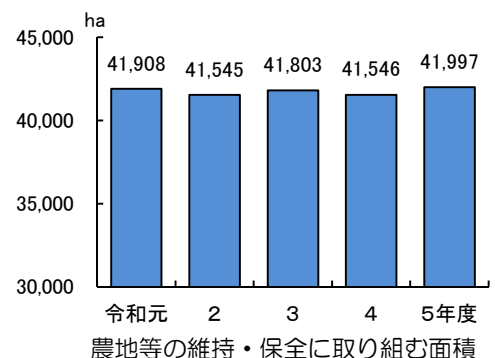


農村 RMO のイメージ

資料：九州農政局

(農地等の維持・保全への取組を支援)

- ・農業や農村が持つ多面的機能を維持発揮するには、農地や水利施設の継続的な保全活動が不可欠です。
- ・このため、県では、多面的機能支払制度と中山間地域等直接支払制度を活用し、水路の泥上げや農道の草刈り、農地の維持・管理といった保全活動を行う活動組織を支援しています。
- ・令和5年度は、41,997haにおいて保全活動が実施されました。加えて、福岡県農地・水・環境保全協議会と連携し、水路等の補修技術や保全活動の優良事例を紹介する研修会を開催し、活動組織から1,028人が参加しました。
- ・また、福智町で刈払機安全講習会を開催し、30人の参加者が刈払機の安全な取扱方法を学びました。



資料：農山漁村振興課調べ



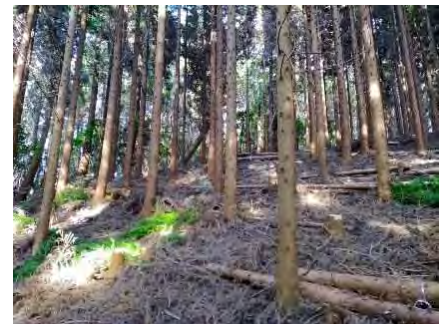
刈払機安全講習会

（公益的機能の持続的な発揮に向けた森林整備を推進）

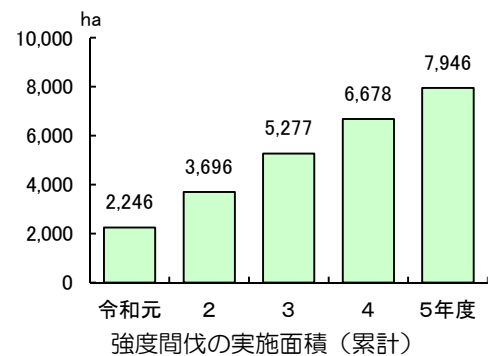
- ・県では、土砂災害の防止や水源のかん養といった公益的機能を持続的に発揮できる森林を育てるため、福岡県森林環境税を活用して森林の整備に取り組んでいます。
- ・令和5年度は、強度間伐※¹1,268ha、広葉樹植栽21.1haを実施するとともに、5年度からは、雨水による地表の浸食を抑えるため、^{すじこう}筋工※²を面的に設置する取組を新たに始めました。
- ・平成30年度から開始した第Ⅱ期事業における森林整備の累計面積は8,503haとなり、うち強度間伐の面積は、7,946haとなりました。

※1 強度間伐：間伐率を通常より高く設定した間伐のこと。間伐率は、災害を誘発することがないよう、一律ではなく現地に応じて適切に設定している。

※2 筋工：斜面の等高線に沿って間伐材等を設置する工法。雨水を分散させ、地表の浸食を防止し、表土の流出を抑える。



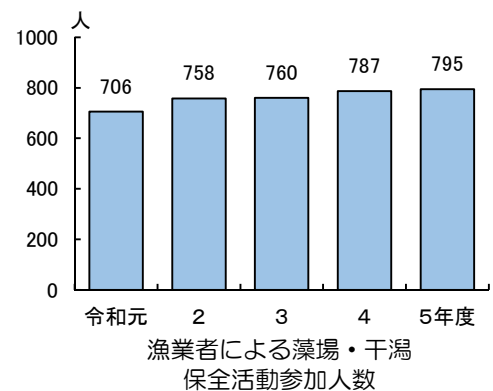
強度間伐後の林内



資料：林業振興課調べ

（藻場保全活動によるブルーカーボンを推進）

- ・県では、漁業者グループが実施する藻場や干潟の保全活動を支援しており、令和5年度は17グループ、795人が活動に参加しました。
- ・このうち、藻場では、海藻を食害するウニの除去や海藻の種の投入などの活動が実施されています。
- ・海藻に吸収して固定される炭素「ブルーカーボン」は、脱炭素社会の実現に向けて、大きな役割が期待されています。これらの活動を支援し、藻場を再生することで、ブルーカーボンの創出を推進していきます。



資料：漁業管理課調べ



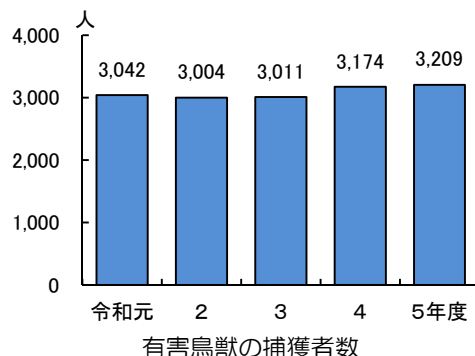
ウニの除去活動

(有害鳥獣被害軽減に向け、狩猟者の確保・育成を強化)

- ・県では、野生鳥獣による農林水産物被害の軽減に向け、捕獲に従事する狩猟者を確保するため、令和5年度から、狩猟免許取得希望者を対象とした講習会を開催しています。
- ・また、免許を取得しても、捕獲活動に従事しない狩猟者も多いことから、経験の浅い免許取得者を対象に、わなの設置や猟銃の取扱いに関する研修会のほか、ベテラン狩猟者がマンツーマンで指導を行う研修を開催しています。
- ・これらの取組の結果、5年度に狩猟登録を行った狩猟者は3,209人と、前年より35人増加しました。



わな研修会の様子



資料：経営技術支援課調べ

(野生動物との棲み分けを図る緩衝地帯の整備を推進)

- ・県では、農地に隣接し、野生動物が身を隠すことができる里山が、農作物被害拡大の要因の一つとなっているため、雑草木を除去し、野生動物が身を隠すことができない、見通しの良い緩衝地帯を整備する取組を進めています。
- ・令和5年度は、岡垣町に加え、古賀市、うきは市、糸島市、添田町が実施する緩衝地帯の整備を支援しました。整備した区域では、イノシシの出没の抑制に高い効果が確認できました。
- ・また、この取組の効果を持続させるには、緩衝地帯の草刈りや見回りといった地域ぐるみの対策が必要であるため、近隣の地域住民に対し緩衝地帯を活かした被害対策についての研修会を実施しました。



緩衝地帯の整備
(上段：整備前・下段：整備後)



地域住民への研修会

トピック

○ 令和5年梅雨前線豪雨からの復旧

- ・ 令和5年7月の令和5年梅雨前線豪雨では、4度にわたって県内全域に線状降水帯が発生し、記録的な大雨となりました。
- ・ 県内の広い範囲において、農業では農作物の冠水、ハウス施設や水路をはじめとする農業用施設の損壊、林業では山腹や林道法面の崩壊、漁業では河川への土砂の流入といった大きな被害が発生しました。
- ・ 県では、災害発生後、直ちに相談窓口を設置するとともに、被災した農地・農業用施設、山地や林道における二次被害を防ぐ応急対策を実施し、順次、復旧工事に着手しています。
- ・ また、ハウス施設や農業用機械の再取得・修繕及び営農再開に必要な種苗や肥料といった生産資材の購入に対する支援、孵化直前のアユ卵の放流といった対策を実施しました。
- ・ 今後も、豪雨災害に備えた農業用施設の機能強化に取り組むとともに、クリーク^{せき}の先行排水や田んぼダム^{はしすいす}※といった流域治水の取組拡大を図ります。

※田んぼダム：流出量を抑制する堰板^{せきいた}などを水田の排水^{はいすいす}桝^かに取付け、大雨の際、通常^{せいじょう}の管理水位を超えて一時的に貯留し、時間をかけて排水することで、水路や河川の急激な増水を抑える取組。



被災後



復旧後

復旧した農業用ため池



被災後



復旧後

復旧した農業用道路

○ 令和５年度に表彰行事で受賞された方々

農業

全国・ 県域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
全国	令和５年秋の褒章	黄綬褒章	八女市	小松 保夫
	令和５年度農事功績表彰	農事功労者 緑白綬有功章	筑後市	角 整樹
	第 62 回全国青年農業者会議	意見発表の部 農林水産大臣賞	添田町	高瀬 寛人
	令和５年度全国優良経営体表彰	経営改善部門 全国担い手育成総合支援協議会会長賞	久留米市	有限会社 古賀農産
	令和５年度農山漁村女性活躍表彰	女性地域社会参画部門 審査委員特別賞	飯塚市	長野 路代
	令和５年度全国麦作共励会	農家の部 農林水産大臣賞	糸島市	株式会社 百笑屋 代表取締役 松崎 治久
	令和５年度全国麦作共励会	集団の部 全国米麦改良協会会長賞	築上町	農事組合法人 今津の里
	第 25 回全国果樹技術・経営コンクール	農林水産省農産局長賞	朝倉市	筑前あさくら農業協同組合かき部会
	第 77 回全国茶品評会	玉露の部 農林水産大臣賞	八女市	倉住 努
	第 77 回全国茶品評会	玉露の部 農林水産省農産局長賞	八女市	農事組合法人 みどり園大渕 林田 和広
	第 77 回全国茶品評会	玉露の部 農林水産省農産局長賞	八女市	山口 英昭
	第 40 回全国茶生産青年茶審査技術競技会	農林水産大臣賞	八女市	徳永 慎太郎
	第 45 回全国土地改良大会福井大会	土地改良事業功績者表彰 農林水産大臣表彰	みやま市	山川地区土地改良区 理事長 柿原 廣典
	第 45 回全国土地改良大会福井大会	土地改良事業功績者表彰 全国土地改良事業団体連合会長表彰	糸島市	糸島市二丈土地改良区 理事長 重 正善
	第 65 回全国土地改良功労者等表彰	全土連会長賞 団体表彰	宮若市	宮若市吉川土地改良区
	第 65 回全国土地改良功労者等表彰	全土連会長賞 個人表彰	久留米市	筑後川下流土地改良区連合 理事長 金子 健次
	第 65 回全国土地改良功労者等表彰	農林水産省農村振興局長表彰 団体表彰	朝倉市	山田堰土地改良区
県域	令和５年度福岡県麦作共励会	農家の部 福岡県知事賞	うきは市	和海ファーム株式会社 代表取締役 尾花 里美
	令和５年度福岡県麦作共励会	農家の部 福岡県知事賞	遠賀町	浪松 薫
	令和５年度福岡県麦作共励会	集団の部 福岡県知事賞	飯塚市	ニューアグリかいた合同会社
	令和５年度福岡県麦作共励会	集団の部 福岡県知事賞	筑後市	農事組合法人 富久
	令和５年度福岡県大豆作経営改善共進会	農家の部 福岡県知事賞	久留米市	江頭 和彦
	令和５年度福岡県大豆作経営改善共進会	集団の部 福岡県知事賞	朝倉市	農事組合法人 あさくら大角ファーム
	令和５年度福岡県花き品評会	産物の部 農林水産大臣賞	うきは市	柳 壽幸
	令和５年度福岡県花き品評会	技術・ほ場の部 農林水産大臣賞	八女市	加藤 幸一
	令和５年度福岡県果樹苗ほ品評会	農林水産大臣賞	久留米市	江上 弾
	令和５年度福岡県茶業共進会	玉露の部 農林水産大臣賞	八女市	グリーンティ日向神 月足 靖彦
	令和５年度福岡県茶業共進会	煎茶の部 農林水産大臣賞	筑後市	永松園 永松 敏治
	令和５年度福岡県茶業共進会	玉露園の部 農林水産大臣賞	八女市	小山田 幹男
	令和５年度福岡県茶業共進会	煎茶園の部 農林水産大臣賞	八女市	坂田 輝彦
	第 59 回福岡県肉畜共進会	和牛の部 農林水産大臣賞・福岡県知事賞	筑紫野市	平山 英一

全国・ 県域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
県域	第 59 回福岡県肉畜共進会	国産牛の部 福岡県知事賞	久山町	西原 弥子
	第 59 回福岡県肉畜共進会	肉豚の部 農林水産省畜産局長賞・福岡県知事賞	糸島市	有限会社 王宇義農産
	令和 5 年度ふくおか 6 次化商品セレクション	福岡県知事賞	豊前市	株式会社 瑞穂
	令和 5 年度ふくおか 6 次化商品セレクション	福岡県知事賞	うきは市	うきはの宝株式会社
	福岡県農林業団体等功労者表彰	福岡県知事賞	みやこ町	時本 数章
	ふくおか農林漁業応援団体表彰	福岡県知事賞	福岡市	福岡交通株式会社
	ふくおか農林漁業応援団体表彰	福岡県知事賞	福岡市	学校法人 中村学園
	令和 5 年度福岡県青年農業者会議	意見発表の部 福岡県知事賞	朝倉市	重松 良輔
	令和 5 年度福岡県青年農業者会議	プロジェクト発表の部 福岡県知事賞	八女市	住吉 健太
	令和 5 年度福岡県農業指導功労者表彰	福岡県知事賞	岡垣町	俵口 和義
	令和 5 年度福岡県農業指導功労者表彰	福岡県知事賞	宮若市	安田 克徳
	令和 5 年度福岡県農業指導功労者表彰	福岡県知事賞	大木町	大藪 進
	第 59 回「J A 共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	福岡市	福岡市立 箱崎小学校 小学 1 年生 渡邊 碧生
	第 59 回「J A 共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	北九州市	私立 明治学園小学校 小学 2 年生 いは ゆうり
	第 59 回「J A 共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	福岡市	私立 西南学院小学校 小学 3 年生 藤井 創仁
	第 59 回「J A 共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	福岡市	私立 福岡雙葉小学校 小学 4 年生 古田 優姫
	第 59 回「J A 共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	福岡市	福岡市立 箱崎小学校 小学 5 年生 渡邊 咲空
	第 59 回「J A 共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	福岡市	私立 福岡雙葉小学校 小学 6 年生 古田 姫菜
	第 59 回「J A 共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	北九州市	北九州市立 洞北中学校 中学 1 年生 丹野 生路
	第 59 回「J A 共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	福岡市	国立大学法人 福岡教育大学附属福岡中学校 中学 2 年生 野副 由衣
	第 59 回「J A 共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	福岡市	私立 博多女子中学校 中学 3 年生 渡邊 佳音
	第 59 回「J A 共済」小・中学生作文コンクール	学校賞の部 福岡県知事賞	北九州市	私立 明治学園小学校
	第 59 回「J A 共済」小・中学生作文コンクール	学校賞の部 福岡県知事賞	北九州市	北九州市立 洞北中学校

林業

全国・ 県域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
全国	第 48 回全国児童・生徒木工工作コンクール	小学校高学年の部 ウッドワン賞	大川市	大川市立 川口小学校 6 年 吉岡 煌真
	令和 5 年度全国山林苗畑品評会	林野庁長官賞	朝倉市	熊本 廣文
	第 46 回林道維持管理コンクール	日本林道協会会長賞	みやこ町	みやこ町
県域	第 49 回福岡県竹林品評会	農林水産大臣賞	宮若市	安田 克徳
	第 54 回福岡県椎茸品評会	乾椎茸の部 農林水産大臣賞	八女市	松延 正博
	第 54 回福岡県椎茸品評会	生椎茸の部 農林水産大臣賞	八女市	松延 真弓
	令和 5 年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	農林水産大臣賞	うきは市	吉岡 和馬
	令和 5 年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	農林水産省農産局長賞	久留米市	上野 恭一
	令和 5 年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	福岡県知事賞	小郡市	黒岩 智史
	令和 5 年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	福岡県知事賞	朝倉市	丸山 英昭
	令和 5 年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	福岡県知事賞	小郡市	成島 翔平
	第 74 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	遠賀町	遠賀町木守区
	第 74 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	遠賀町	遠賀町中央区
	第 74 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	岡垣町	三里松原防風保安林保全対策協議 会
	第 74 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	芦屋町	芦屋町立山鹿小学校緑の少年団
	第 74 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	福岡市	ダイドードリンコ株式会社九州営 業部
	第 74 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	朝倉市	福岡県樹苗農業協同組合サシスギ 部会
	第 74 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	飯塚市	小河 誠司
	第 74 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県植樹祭実行委員長賞	岡垣町	岡垣緑のまちづくりの会
	第 74 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県植樹祭実行委員長賞	福岡市	ぐりーんぱんだ
	第 74 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県植樹祭実行委員長賞	添田町	落合小学校緑の少年団
	第 74 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県植樹祭実行委員長賞	みやま市	清水小学校緑の少年団
	第 74 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県植樹祭実行委員長賞	みやこ町	みやこ伊良原学園緑の少年団
	令和 5 年度水源の森ポスター原画コンクール	福岡県知事賞（小学校の部）	苅田町	野川 桃菜
	令和 5 年度水源の森ポスター原画コンクール	福岡県知事賞（中学校の部）	宇美町	岳本 悠吾
	第 48 回福岡県児童・生徒木工工作コンクール	小学校低学年の部 福岡県知事賞	北九州市	北九州市立 吉田小学校 4 年 宮浦 結美
	第 48 回福岡県児童・生徒木工工作コンクール	小学校高学年の部 福岡県知事賞	大川市	大川市立 川口小学校 6 年 吉岡 煌真
	第 10 回福岡県木造・木質化建築賞	木造の部 大賞	福岡市	鳥飼八幡宮 対拝殿
	第 10 回福岡県木造・木質化建築賞	木質化の部 大賞	福岡市	やまや総本店 膳 / 白金小径
	第 10 回福岡県木造・木質化建築賞	木造の部 優秀賞	太宰府市	陰翳を愉しむコートハウス
	第 10 回福岡県木造・木質化建築賞	木質化の部 優秀賞	福岡市	ボタニカルライフスクエア
	第 10 回福岡県木造・木質化建築賞	特別賞	糸島市	学校法人瑠璃学園 認定こども園 瑠璃幼稚園

全国・ 県域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
県域	第10回福岡県木造・木質化建築賞	特別賞	飯塚市	大和興業ビル
	福岡県青少年健全育成アワード2023	福岡県知事表彰	大木町	木佐木小学校緑の少年団
	第33回世界子ども愛樹祭コンクール	詩・作文の部 みどりの賞福岡県知事賞	八女市	野中 美遥
	第33回世界子ども愛樹祭コンクール	絵画の部 みどりの賞福岡県知事賞	徳島県 吉野川市	尾崎 めい

水産業

全国・ 県域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
全国	令和5年度（第62回）農林水産祭	内閣総理大臣賞	宗像市	宗像漁業協同組合 鐘崎あまはえ縄船団
	第71回浅海増殖研究発表全国大会	水産庁長官賞	柳川市	福岡県有明海区研究連合会 大淵 芳博（浜武漁協所属）
	第29回全国青年・女性漁業者交流大会	農林中央金庫理事長賞	柳川市	両開漁業協同組合女性部 田中 恵美子
	第54回全日本総合錦鯉品評会	福岡県知事賞	北九州市	田中 龍平
	第40回錦鯉全国若鯉品評会	福岡県知事賞	福岡市	井上 亨
県域	第60回福岡県海の子児童作品展	習字の部 福岡県知事賞	柳川市	柳川市立 昭代第二小学校 6年 北原 心
	第60回福岡県海の子児童作品展	図画の部 福岡県知事賞	福岡市	福岡市立 玄界小学校 6年 井上 愛結